



# TNTmips 2015 新機能の概要

多くの新機能を盛りこんだ TNTmips2015 は 2015 年 1 月 14 日にリリースの予定です。  
新機能は今すぐ TNTmips2015DV で試すことができます。

TNTmips 2015 へのアップグレードを今お申し込みいただきますと、

2015 年 1 月 14 日以降のアップグレードご購入に比べ 20% 割引の特別価格でご購入できます。

以下に、TNTmips2015 の新機能の一部を紹介します。

[TNTmips 2015 の新機能の全リスト](#)

[TNTmips 2015 のテクニカルガイド](#)

## 全般に関する新機能

- 地理院地図と 20 万分の 1 日本シームレス地質図タイルセットを表示画面内から参照、他のレイヤと重ねて表示できます (参考: <http://www.opengis.co.jp/img/info/TNT2015DV140627.pdf>)。
- Mac OS X 10.10(Yosemite) に対応
- ファイル / オブジェクト選択ウィンドウで、テキストを入力するとリスト内で最初に合致した名称に自動スクロールします。
- ジョブマネージャのスケジュール画面がリニューアルし、より直感的に操作しやすくなりました。
- スケジュール画面に、繰り返しのジョブに加えて、特定の日に一度だけジョブを実行するオプションが追加。
- SML の関数とクラスのスクリプト参照画面がリニューアル。パラメータと詳細の表示がより明確にすっきりしました。

## 空間表示

- 異なるセルサイズ、縦横サイズ、空間範囲のラスタを使って三成分画像レイヤ (RGB, HIS, 他) を表示。
- マルチバンド画像レイヤの選択に 3 イメージバンド以上の選択が可能。また、任意の 3 バンドの選択でレイヤの RGB 表示が可能に。
- オブジェクトの追加アイコンから表示する任意の数の画像バンドを選択可能に。その際、別レイヤでの追加や、1 つの RGB レイヤとして、またはマルチバンドレイヤとしての指定も可能。
- ベクタのライン / ポリゴンの中間点を表示するオプションが追加。(参考: [http://www.opengis.co.jp/info/v2015/ShowVertices\\_TNTmips2015.pdf](http://www.opengis.co.jp/info/v2015/ShowVertices_TNTmips2015.pdf))
- ジオフォーミュラレイヤコントロール画面がリニューアル。スクリプト操作にアイコンボタン使用で使い方が簡単に。
- ジオツールボックスのリージョンパネルでリージョンをベクタオブジェクトとして保存可能に。
- PDF へのレンダリングに、非表示のレイヤはレンダリングしないオプションが追加。

## ジオリファレンスとオルソ補正

- 3D 画像のコントロールポイントからオルソ補正のための有理多項式 (RPC) モデルを計算します。
- 自動登録操作で有理多項式 (RPC) モデル用の 3D コントロールポイントを配置。[Default Z from Surface( 地表面からのデフォルトの Z 値 )] オプションが指定されている場合、自動登録操作で指定の DEM から新規のポイントに対する Z 値を割り当てます。

## バッファゾーン ( 緩衝域 ) の生成 ( 参考: [http://www.opengis.co.jp/info/v2015/BufferZone\\_TNT2015.pdf](http://www.opengis.co.jp/info/v2015/BufferZone_TNT2015.pdf))

- [ バッファゾーンの生成 ] 画面がリニューアル。全ての処理パラメータを 1 つのパネル上に表示。
- ポリゴン、ライン、ポイント、ノードにバッファを付けられます。
- ポリゴンバッファの新オプション: Expand( 拡張 ), Shrink( 縮小 ), Outer Ring( 境界線外側 ), Inner Ring( 境界線内側 ), Border( 境界線: 外側 + 内側 )
- ベクタ、CAD、リージョンとしてバッファを生成。
- ポリゴンバッファが重なる場合のマージオプション ( 全てまたは属性による )。
- 属性別にバッファの距離を設定するオプション



## 空間統計処理の画面リニューアルと改良

- ポリゴンによる図形要素の集計 (旧ポリゴンの集計)
- 図形要素によるラスタの集計 (旧 Geometric Raster Properties)
- 図形要素による地表面集計
- カテゴリラスタによる画像統計
- ポリゴン形状のプロパティ

## モザイク処理

- 任意の入力画像や別々の参照画像に対してコントラストを合わせます。
- グレイスケール、RGB、マルチバンド画像をコントラスト調整します。
- モザイクの構成時や構成したモザイクに対してコントラスト調整を行うときに、以前に設定して保存してあったコントラスト調整や自動コントラスト調整のパラメータを適用します。
- モザイク処理した RGB は RGB 合成か RGB 分離ファイルに分離します。

## 画像のフィルタ処理

- 空間フィルタコントロール画面がアップグレードし、コントロール画面とサイズ可変のフィルタカーネルタブが使いやすくなりました。
- 全てのフィルタは、出力画像を作成するときのソースとフィルタリング結果のブレンド割合が可変です。
- 定義済みフィルタ画面のサイズが選択できます (21x21 まで)。または、サイズフィールドに入力してサイズを設定できます。
- ガウシアン平滑化フィルタとグレーレベル同時生起行列フィルタテクスチャフィルタのファミリーが新規追加 (コントラスト、相違、同質性、エントロピー、その他)。

## ラスタの組み合わせ演算に植生指数カテゴリが追加

- 処理が 4 グループに再編成：代数、論理的、総合指数、ブロードバンド植生指標
- ブロードバンド植生指標グループには 14 個の一般指標があり、例えば次の指標が含まれます。NDVI (正規化植生指標)、ARVI (Atmospherically Resistant Vegetation Index)、EVI (Enhanced Vegetation Index)、SAVI (Soil Adjusted Vegetation Index)、MSAVI2 (Modified Soil Adjusted Vegetation Index)。

## エディタとデータベース操作

- ライン/ポリゴンツール：マニュアルモード時、距離と方角に基づいてラインを伸長できます。
- スナップ処理：隙間のスナップ処理を一箇所ずつレビュー確認しながら行うオプションが追加。
- 円弧と線でスナップの範囲と距離を確認し、処理するかを決められます。
- 編集時のラインを他のラインと交差でき、他の要素にスナップもできます。
- テーブルプロパティウィンドウのデザインが変わり使いやすくなりました。全テーブルとフィールドが 1 パネルに表示されます。
- 最初に数値かテキストかのフィールドタイプを定義することによって "数値計算" フィールドと "テキスト計算" を作成し、その後計算されるように設定します。
- 自動インクリメント数値フィールドが作れます。

